

「大飯原発は新基準に適合していません！直ちに停止を」
6月21日規制庁交渉を踏まて、当日宿題となった点等に関する質問書
と規制庁からの6月25日付回答

原子力規制委員会委員長 田中俊一 様

2013年6月23日

1. 免震事務棟の代替施設としている大飯原発1・2号機の中央制御室横の会議室について

- (1) 居住性確認では、基準線量として7日間で約4 mSvとなっています。この評価の条件として、風向き方位は「2方位」となっていますが、「2方位」とは具体的にどの方位ですか？

【回答】風向き包囲「2方位」は、風向WSWとSWの2方位となります。

- (2) 被ばく評価では累積出現頻度 97%値を用い、2009年の1年間の気象データを用いたとされています（5月23日付資料3「居住性評価」, 2頁）。

・上記2方位それぞれの風向出現頻度は、何%で評価したのですか。

【回答】事業者の評価において、風向出現頻度は用いられておりません。1・2号機中央制御室横の被ばく評価では、放出継続時間を1時間とし、着目方位とした風向WSWとSWの1時間毎の相対濃度を足し合わせて、累積出現頻度97%に相当する値を用いて評価されています。

・5月23日付資料3の48頁表2に風向出現頻度（標高30m）が示されていますが、1・2号機中央制御室横方向への風向はENEですか。実際の風向出現頻度は何%と評価したのですか。

【回答】3・4号機から1・2号機中央制御室横へ方向はENEです。評価における風向出現頻度の取扱いは前述のとおりとなります。

2. 3連動するときの基準地震動について

- (1) 評価書案で3連動地震動と表現されている地震動は基準地震動とは言えないのではないですか。基準地震動であるのなら、どこでそれが規定されていますか。

【回答】評価書案については現在とりまとめ中であるため、その記載内容には修正が入る可能性があることから、個別具体的なことについては回答を控えさせていただきます。今後、評価会合における審議・とりまとめを経て、原子力規制委員会で審議される予定です。いずれにしても、事業者が提出しているFo-A断層と熊川断層との連続性を否定するデータは不十分であるため、Fo-A～Fo-B断層と熊川断層との連続性を考慮した3連動地震動により施設の耐震安全性等を確認しています。

(2) 基準地震動は、断層モデルなどによるすべての応答スペクトルを包絡し、さらに余裕をもたせて設定すべきではありませんか。

【回答】新規制基準等では、基準地震動策定に際し、想定した検討用地震ごとに、応答スペクトルに基づく地震動評価及び断層モデルを用いた手法による地震動評価を実施して策定することを求めています。

3. 「不確かさ」の重ね合わせについて

断層上端距離 3 km で、短周期の揺れを 1.5 倍にした場合の地震動を示してください。

【回答】今回の評価においては、評価会合での議論に基づき、上端距離 4 km を基本ケースとしつつ、不確かさの考慮として上端距離、応力降下量、傾斜角等について検討しています。

4. 制御棒挿入時間については「評価手法がこれまでと同じであることは確認している」との回答でした。「評価手法がこれまでと同じ」ということについて、具体的に説明してください。

【回答】今般の現状評価では、耐震強度等の評価に関して既工認から変更を行った評価手法等について確認を実施しております。この視点から、制御棒挿入性については、その評価手法の変更の考え方について問題ないことを確認したものです。

5. 電力会社と行っているヒアリングについて、

公開されている議事録では、内容が分かりません。公開性・透明性を高める観点から、ヒアリングを公開してください。

【回答】本件ヒアリングは、事業者からの報告の記載内容に関する事実確認等を実施しており、評価に係る部分は、公開の評価会合で実施しています。事業者からのヒアリングについては、事業者との面談に該当するため、概要を作成し、ホームページに公開していません。

6. 住民・自治体の声を聞くべきです

大飯評価会合の結論を出す前に、地元はもとより、周辺の住民・自治体に説明し、意見を聞く場を設定してください。

【回答】新規制基準をはじめとする原子力規制委員会の決定事項に関しては、自治体からの要望等に応じて、その科学的合理的な判断に至った理由等について、説明することを考えています。